

# 「鳥山先生！お世話になりました！！」

## 制作期間

2024年11月～2025年1月

## サイズ

30（縦）×30（横）×15（高さ）

## 使用キット

1/35 サンドランド国王軍戦車隊 104号車

## 使用材料

スチレンボード、紙粘土、樹脂粘土、ジオラマ用砂、木工用ボンド、セメダインEXクリア、アクリルガッシュ、水性ホビーカラー、水転写デカール、ツヤ消しトップコート



毎年恒例の教員展示は鳥山明先生原作の「SAND LAND」より国王軍戦車隊 104号車のジオラマの出品です。「SAND LAND」はモンスターとオッサンしか出てこない珍しい作品で、砂漠を舞台として繰り広げられる冒険活劇です。劇中では戦車やバギーなど魅力的なメカがたくさん登場します。鳥山先生の好きなものが全て詰まっているといっても過言ではありません。昨年映画化され、原作の後を描くアニメシリーズも配信されました。



私自身、鳥山明作品とともに歩んできた世代ですので、振り返ると様々なことが思い出されます。幼い頃に初めて購入したコミックは「Dr. スランプ」の第6巻でした。ジャンプで真っ先に読むのはもちろん鳥山作品でした。「ヘタッピマンガ研究所」でマンガの描き方を知りました。「タミヤの人形改造コンテスト」に出品された作品の緻密さに驚愕しました。「ドラゴンクエスト」で何度も何度も勇者としての経験を積

みました。悟空がスーパーサイヤ人になったことを知ったのは土曜日の部室でした。美大受験前にはキャラクターを何度も模写し自由課題に活かしました。卒業制作のアニメーションは鳥山明風タッチでした。

2024年3月1日、鳥山明先生が亡くなったことを職員室で知った時は頭が真っ白になり仕事をする手が止まってしまいました。帰宅時にSNS



を確認すると、世界中の人々が悲しみに暮れている様子で溢れており、鳥山先生が世の中に与えた影響の大きさを思



い知りました。このジオラマはそんな鳥山チルドレンである私から鳥山先生へのこれまでの感謝を表した作品になります。

砂漠をゆっくりと走行する戦車の手前に岩とトカゲを置くことで場面にアクセントと遠近感をつけました。地面も徐々に奥に向かってグラデーションをつけているので空気感が出せたと思います。様々な角度から見て味わってください。

## 制作過程 I

① キットを仮組み、塗装します。今回は使い古した感じを出すために「塩ケープ剥がし」に取り組みました。

※塩ケープ剥がしとは・・・実際に塗膜を剥がして使用感・経年劣化感を表現する塗装方法。一般的には下地塗装の上にケープ（整髪スプレーのこと。成分にシリコンが含まれている）を吹き付け、乾燥する前に塩（岩塩が効果的ですが今回は家庭用の食塩を使用）をまぶし、さらにその上から塗装を行う。

② 塗膜が乾燥したら水に10分ほど浸ける。そうすると浸透圧で塩だけが溶け出す。その表面を金属ブラシ等で軽くこすると、塩が乗っていたところを中心に上から重ねた塗膜が剥がれ下地塗装が露わになる。

③ 組み立てながら合わせ目や段差、ふちなどを中心に塗膜を剥がし、雰囲気を出す。

④ 特に戦車の下部（裏側）については走行時に地面と擦れることを考慮し、強めに剥がした。



## 制作過程2

- ⑤ キャラクター設定を見ながら、アクリルガッシュを活用し筆塗りで塗装。アニメっぽい塗り分けを意識しながら作業を進めた。
- ⑥ 戦車の内部は水性ホビーカラーを活用し塗りを施した。実際の戦車の内部写真等を参考にした。
- ⑦ 内装と外装を組み合わせながら色彩の調整を行い、戦車本体が完成（仮）。後ほどウェザリングで調整。



### 制作過程3

- ⑧ スタイロフォームを適度なサイズに切り、土台を作成。戦車の履帯（キャタピラ）の跡にあたる部分の寸法を実際のパーツを使って計測。デザインナイフで切り出し、窪みを作り出した。
- ⑨ 少し水を含ませた紙粘土を使用し、凹凸を意識しながら地面を作成。
- ⑩ 全体をよく乾燥させた後、水溶きボンドを表面に塗り、砂粒をランダムに敷いた。



- ⑪ 手前の岩は、別で作成したものを後から貼り合わせた。
- ⑫ 岩は芯材に、切ったスタイロフォーム積み重ね、カッター等で形を整え、その上に紙粘土を粗めに塗り付け質感を出した（手前にあるものとして形をよりはっきりとさせるため）。
- ⑬ 塗装はアクリルガッシュ。手前と奥を意識しながら調色し、塗装を行った。

#### 制作過程 4

- ⑭ 戦車のウェザリングと小物の制作を行った。戦車には錆と砂や泥汚れを施した。また、走行感を出すための砂煙を繊維の長さの異なる綿を活用して作成した。写真の砂煙はイメージと違っていたのでボツに。



- ⑮ 樹脂粘土を活用しトカゲを作成。岩の形にうまくフィットするように体にねじりを入れ、手足が岩肌を捉えているように立体的に造形した。
- ⑯ トカゲの塗装にはアクリルガッシュを活用。全体的にミリタリー色の強い作品であることから派手目の色をしたトカゲを参考に塗装を行った。

## 制作過程 5

- ⑰ 小物を取り付けたところ、手前に情報が欲しいと感じたので、灌木をイメージしたジオラマスポンジを置いた。
- ⑱ SAND LAND のロゴをキットから流用し貼り付けて完成。

